待つ

太宰治

構造理解 次の空欄にあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出しなさい。

第一・二段（二一〇・1〜二一二・2）

私は毎日、省線の小さな駅で誰ともわからぬ人を待っている。

電車の戸口から出てくるたくさんの人が思い思いの方向に散って行くなか、私は〔①　　〕とベンチに座っている。私は、そのうちの一人が〔②　　〕私に声をかけることを想像して、息が詰まるほどぞっとする。それでも、私は誰かを待っている。

私が待っているのは人間ではないのかもしれない。私は人が嫌い、というより怖いのである。言いたくもない挨拶をいい加減に言っていると、自分ほどの〔③　　〕が世界にいないような気がして、私は死にたくなる。また、相手の人がお世辞やうその感想などを言ってくると、その人の〔④　　〕を感じて悲しくなり、世の中が嫌でたまらなくなる。私は〔⑤　　〕ことが嫌なのだ。

だから私は、自分からすすんで人のところに行くことはなかった。母と二人で縫い物をしているときが、いちばん楽な気持ちになれた。しかし、〔⑥　　〕がはじまると、自分だけ家でぼんやりしていることが、とても悪いことのような気がしてきた。私は今までの生活に〔⑦　　〕を失ってしまった。

第三段（二一二・3〜二一三・1）

何か〔⑧　　〕気持ちで外に出るが、私には行くところがない。買い物をした帰りに、駅のベンチで腰かけていると、期待や恐怖、覚悟や空想が絡み合って、窒息しそうなほど苦しくなる。もしかしたら、私が役に立ちたいというのは口実で、軽はずみな計画を実現しようとしているのかもしれない。そういえば、私の胸の中で〔⑨　　〕計画が燃えているような気もする。

語句理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

(1) ホームに**トウチャク**する

(2) 諦めに似た**カクゴ**

(3) **チッソク**するほど苦しく

(4) **眼前**の、人の往来のありさま

(5) **旦那**さま

2 傍線部の語句の本文中の意味として適当なものはどれか。次の中からそれぞれ**一つ**選んで記号で答えなさい。

(1) 思い思いの方向に散って行く。（二一〇・8）

ア 空想上の
イ 想像したように
ウ 思いどおりの
エ 強く思っている

(2) こわばった挨拶をして、（二一一・6）

ア 固く緊張した
イ 強く主張した
ウ ひどく恐怖した
エ うまく見せかけた

第四段（二―三・2〜7）	第五段（二―三・8〜15）
私は誰を待っているのだろうか。〔⑩　　〕は何もなく、もやもやしている。旦那さま、恋人、お友達、お金、亡霊。そのどれでもない。	何か分からないが、もっと和やかで、ぱっと明るい、〔⑪　　〕ものを待っている。たとえば、春のようなもの。青葉、五月、麦畑を流れる清水。どれも、違う。どうか、私を忘れないで。毎日駅へ迎えに行っては、むなしく帰る〔⑫　　〕を笑わずに、覚えておいてください。私が待つ小さい駅の名は、わざと教えません。教えなくても、あなたは、いつか私を見かける。

3 次の文の空欄に適当な**漢字一字**を入れて、（　）内の意味になるようにそれぞれ文を完成させなさい。

(1) □が詰まる。
（極度に緊張して呼吸が止まるような感じがする）

(2) 冷や□をかける。
（元気を失わせる）

(3) 身を□にする。
（労力を惜しまずに一心に仕事をする）

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

◇第一段（二一〇・1〜二一〇・2）

1 「省線のその小さい駅に、私は毎日、人をお迎えにまいります」（二一〇・1）とあるが、ここでの「人」とはどのような人か。本文から**十字以内**で抜き出しなさい。

◇第二段（二一〇・3〜二一二・2）

2 「たくさんの人」（二一〇・5）が「一様に怒っているような顔」（二一〇・6）をしているのはなぜだと考えられるか。その説明として次の中から適当なもの**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　それぞれの目的のために時間に追われていることと、「大戦争」による緊張もあいまって、精神的な余裕がないから。

イ　「大戦争」をきっかけに人々は表情がこわばっていって、その結果みな似たり寄ったりな顔つきになったから。

ウ　忙しい自分たちをさしおいて、駅のベンチでぼんやりしている私に恨みがましい気持ちをもっているから。

エ　「私」のような若い娘に、笑って声を掛けるような軟派な男に対して、嫉妬と羨望を感じているから。

3 「自分ほどのうそつき」（二一一・2〜3）とあるが、「うそ」とは「私」がどうすることか。本文中の語句を使って**三十字以内**で答えなさい。

4 「それ」（二一一・5）が指し示す内容を**二つ**探して、それぞれを本文から抜き出しなさい。

5 「私」が「いちばん楽な気持ち」（二一一・10〜11）だったのはなぜか。**五十字以内**で説明しなさい。

6 「私の今までの生活」（二一二・1〜2）とはどのような生活か。次の空欄にあてはまる部分を、本文から**二十五字以内**で抜き出しなさい。

50

生活。

◇第三段（二一二・3〜二一三・1）

7 「不埒な計画」（二一二・16）とは何か。その説明として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 「大戦争」を言い訳にして、母と家でしている日課の縫い物をおろそかにすること。

イ 駅で待つ姿を人々に見せて、私が誰かの役に立とうとしていることを印象づけること。

ウ 何かを待ちつづける日々の中で、あわよくば私の理想の異性に出会い、交流を持つこと。

エ 駅を行きかう人の中から、私に笑いかけ、声をかけてくれる人が大勢出てくること。

◇第四・五段（二一三・2〜二一三・15）

8 「私を忘れないでくださいませ」（二一三・12）という表現にはどのような効果があると考えられるか。その説明として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 周囲から取り残されていることを強調することで、私の儚さを印象づけている。

イ 存在が忘れられていく悲しみを訴えることで、本文全体に悲壮感を与えている。

ウ 敬語表現を用いることで、私と読者とのあいだに上下関係があることを示している。

エ 読者に直接語りかけることで、本文を私の独白から読者へのメッセージへと変えている。

主題理解 本文について述べた次の文の中から、適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 大戦争をきっかけに人々の生活に緊張が走ったことで、国民全体に義務感が生まれ、私と母は今まで送ってきた生活に自信を失って途方に暮れている。

イ 私が駅で座っているときはぼんやりしているように見えるが、その胸中は期待や不安、空想などの気持ちがせめぎ合う、ある種の緊張状態にある。

ウ 私は毎日、駅のベンチで誰とも分からない人を待っているが、私に声を掛けてくる特定の人がいるため、とてもつらい。

エ 私は大戦争による義務感にかられて家を出ていったが、どこにも行くところがないため、家に帰ることもできず日々を駅のベンチで過ごしている。

オ 私は特定の人ではなく、抽象的な、何かすばらしいものを待っているのであり、改札口にいる人々の姿は視界にまったく入っていない。